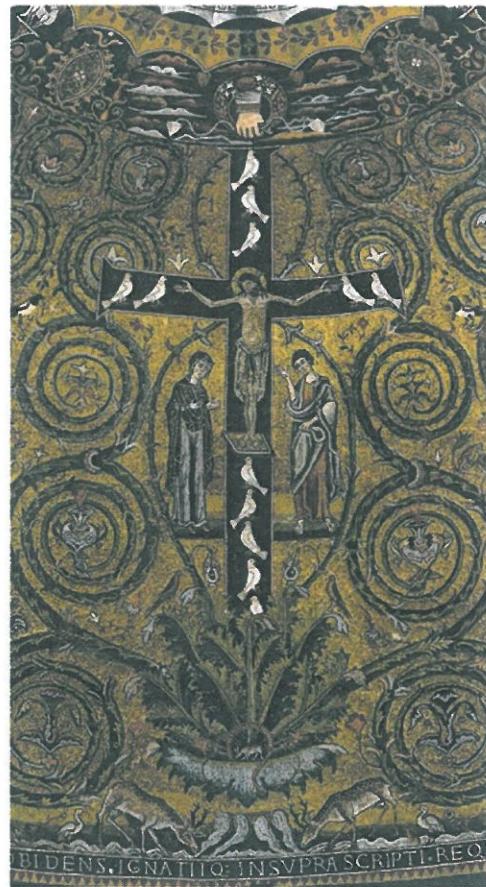


第二部 キリスト教の信仰宣言



信 条

使徒信条

天地の創造主、

全能の父である神を信じます。

父のひとり子、わたしたちの主

イエス・キリストを信じます。

主は聖靈によつてやさり、

おとめマリアから生まれ、

ボンティオ・ピートのもとで茹しみを吸は、

十字架につけられて死に、葬られ、

陰府に下り、

三日目に死者のうわから復活し、

天に昇つて、

全能の父である神の右の座に着き、

生者と死者を裁くために来られます。

Symbolum Apostolicum

Credo in Deum Patrem omnipoténtem,

Creatórem cæli et terra,

et in Iesum Christum, Filium Eius únicum,

Dómínum nostrum, qui concéptus est de

Spiritu Sancto, natus ex María Virgine,

passus sub Pónio Piláto, crucifixus, mórtuus,

et sepultus, descendit ad ínteros, térita die

resurréxit a mórtuis, ascéndit ad cælos, sedet

ad déxteram Dei Patris omnipoténtis, inde

venturus est iudicáre vivos et mórtuos.

Et in Spíritum Sanctum,

sanctam Ecclesiás catholicam,

sanctórum communiónem,

聖靈を信じ、
聖なる普遍の教会、
聖徒の交わり、
罪のゆるし、
からだの復活、
永遠のいのちを信じます。アーメン。

ニケア・コンスタンチノープル信条
わたしは信じます。唯一の神、
全能の父、天と地、見えるもの、見えないもの、
すべてのものの造り主を。
わたしは信じます。唯一の主イエス・キリストを。
主は神のひとり子、
すべてに先立つて父より生まれ、
神よりの神、光よりの光、まいとの神よりのまいの神、
造られるごとに生まれ、父と一体。
やぐでは主によつて造られました。

remissióne peccatórum,
carnis resurrectionem,

vitam ætérnam.

Amen.

Symbolum Nicænum Constantinopolitanum

Credo in unum Deum,
Patrem omnipoténtem,
Factórem celi et terræ,
visibilium ómnium et invisibilium
Et in unum Dóminum Iesum Christum,
Filium Dei umigénitum et ex Patre natum
ante ómnia sǽcula:
Deum de Deo, Lumen de Lúmine, Deum
verum de Deo vero,

主は、わたしたち人類のため、

わたしたちの救いのために天からくだり、

聖靈によつて、おとめマリアよりからだを受け、

人となられました。

ポンティオ・ピラトのゆゑで、わたしたちのために十字架につけられ、

苦しみを受け、葬られ、

聖書にあるとおり三日目に復活し、

天に昇り、父の右の座に着いておられます。

主は、生者と死者を裁くために榮光のうちに再び来られます。

その国は終わることがありません。

わたしは信じます。主であり、いのちの与え主である聖靈を。

聖靈は、父と子から出て、

父と子とともに礼拝され、榮光を受け、

また預言者をおして語られました。

génitum, non factum, consubstantialem Patri:
per quem ómnia facta sunt;

qui propter nos hómines et propter nostram
salútem,

descéndit de cælis, et incarnátus est de Spiritu
Sancto ex Maria Virgine et homo factus est,

crucifixus étiam pro nobis sub Pónio Piláto,
passus et sepultus est, et resurréxit térlia die

secúndum Scriptúras,
et ascendit in cælum, sedet ad dexteram Patris,

et iterum venturus est cum glória, iudicare
vivos et mórtuos, cuius regni non erit finis.

Credo in Spíritum Sanctum, Dóminum et
vivificántem, qui ex Patre Filioque procédit,

qui cum Patre et Filió simul adorátur et
conglorificátur, qui locútus est per prophétas.

Et unam sanctam cathólicam et apostólicam

わたしは、聖なる、普遍の、使徒的、唯一の教会を信じ
ます。

Ecclesiām.
Confiteor unum Baptisma in remissiónem
peccatórum.

罪のゆるしをもたらす唯一の洗礼を認め、
死者の復活と来世のいのちを待ち望みます。アーメン。

Et exspecto resurrectiōnem mortuórum, et
vitam venturi sǽculi.

Amen.

- ・洗礼用の信条(問答形式「信じますか」「信じます」の言い方のやつ)
- ・第一に、神の第一のペルソナ(御父)と創造の感嘆すべきわざについて。第二に、神の第二のペルソナ(御子)と人間のあがないの神秘について。最後に、わたしたちの聖化の泉、根源である神の第三のペルソナ(聖霊)について。

35 もっとも重要な信条はどれですか。

193-195

189-191
185-188; 192; 197

33 信条とは何ですか。
それは、「信仰宣言」とか「クレド」とも呼ばれる、系統立てて述べられた一定の文言です。この信条を通して、教会はその最初から、すべてのキリスト信者に共通の規範となることばで、固有の信仰を総括的に表現し、伝えてきました。

34 もっとも古い信条はどれですか。

洗礼用の信条です。洗礼は「父と子と聖霊の名によって」(マタイ28:19) 授けられるため、そのときに宣言される信仰の真理は、至聖なる三位一体の三つのペルソナに関連づけてまとめられています。

信条

第一章 わたしは父である神を信じます

・共通の規範はローマ6:17から。

・信条のおかげで、一致して同じ信仰を公言できる。

・(信条は)一粒のからし種のようだ(エルサレムの聖チリロ「洗礼志願者のための教話」→参照・中央協議会 HP「教皇ベネディクト16世の100回目の一般謁見演説」「信じますか」「信じます」のローマ6:17から)

第1に、神の第一のペルソナ(御父)と創造の感嘆すべきわざについて

第2に、神の第二のペルソナ(御子)と人間のあがないの神聖な泉、

最後に、神の第三のペルソナ(聖霊)について。

・第一コンスタンチノープル公会議 この公会議には 150 人の教父が出席し、主としてマケドニウス派(聖霊被造物説派)に対して聖霊の神性を定義した。…この公会議は公会議として、コンスタンチノープル地方教会会議(382年)が教皇ダマススにあてた書簡にすでに認められている。しかし、一般に公会議と認められたのは、ずっと後代になってからである。

・DS150 われわれは信ず(われは信ず)、唯一の全能の父なる神…

・DS151 第1条。ビチニアのニケアに集まった318人の教父の信仰を汚すことなく、それを忠実に守らなければならぬ。すべての異端、・・・を排斥しなければならない。

・「唯一の」神
旧約の神の啓示に根ざしている神は唯一であるという宣言は、神の存在の信仰と切り離すことができない、実に根本的な宣言なのです。神は比類のないかたで、唯一の神しか存在しません。

・「いかなる分離ももたらされることはありません」
第4ラテラン公会議(1215,11,11-30) この公会議は、それまでに行われた西方教会における最大の公会議であって、3回の総会(11月11日、20日、30日)が開かれ、聖地奪回、教会改革、および次に記す異端反論の教令が発表された。
DS800 (アルビ派とカタリ(清浄)派に対して)
「われわれは次のことを固く信じ、はっきりと宣言する。唯一のまことの神、永遠、無限、普遍、理解できない、全能、言い表すことができないもの、父と子と聖霊を。位格は三位であるが、本質、実体、本性は全く単純で唯一であることを。

・「いかなる分離ももたらされることはありません」
マルコ 12:35-37 参照。
12:35 イエスは神殿の境内で教えていたとき、こう言われた。「どうして律法学者たちは、『メシアはダビデの子だ』と言うのか。
12:36 ダビデ自身が聖霊を受けて言っている。『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着きなさい。わたしがあなたの敵を／あなたの足もとに屈服させるときまで」と。』
12:37 このようにダビデ自身がメシアを主と呼んでいるのに、どうしてメシアがダビデの子なのか。」大勢の群衆は、イエスの教えに喜んで耳を傾けた。

ローマ教会の古来の洗礼式の信条である使徒信条と、最初の二つの公会議、ニケア公会議（311五年）とコンスタンチノープル公会議（381年）の実りであるニケア・コンスタンチノープル信条です。ニケア・コンスタンチノープル信条は、今日でも、東方と西方のすべての主要な教会に共通の信条です。

「わたしは天地の創造主、全能の父である神を信じます」

36 37 36 37
「わたしは神を信じます」という宣言は、もつとも重要なものであり、人間および世界についての他のすべての真理の、また神を信じるあらゆる人の生活全体の源泉だからです。

200-202-228

36 37
「わたしはなぜ「唯一の」神を宣言するのですか。
神がイスラエルの民に「自分を唯一のかたとして啓示なさつたからです。神は、「聞け、イスラエルよ。主は唯一の主である」（申命記6・4）、「ほかにはいない」（イザヤ45・22）といわれました。イエス自身、このことを確認し、神は「唯一の主である」（マルコ12・29）といわれました。イエスと聖靈もまた神であると宣言することによって、唯一の神のうちにいかなる分離ももたらされることはありません。」

・最も重要なものの

カテキズム 199 番 「わたしは神を信じます」。信仰宣言のこの第一の言明は、もっとも根本的なものです。信条の全体が神について述べています。たとえ、人間や世界について述べても、神との関係のもとで述べているのです。神のおきてがその第一戒の展開であるのと同様に、信条のすべての条項は最初の条項とのかかわりにおいてこそ意味を持つものなのです。他の条項はご自分で徐々に人間に啓示された神をよりよく知らせるものです。「信者はまず、神を信じることを宣言します」。

→右の頁

←

・神はご自分の名を啓示される

カテキズム 203 番 「神はご自分の名を知らせて、御自らを啓示されました。名というものは、その人の本質、その人自身、その人の生き方を表します。神には名があります。非人格的な力ではありません。そもそも自身の名を告げることは、他の人々に自分を知らせることです。いわば、自分を差し出して、近づきやすいものにし、より親密に知られ、個人的に呼びかけられることができるようにするものです。

・神のみが存在する
すべての被造物はそれぞれの存在と所有を神から受けましたが、神だけは存在そのものであり、ご自分の存在のすべてはご自分よりのものです。

・ご自分の名状しがたい
神秘の中に含まれる豊
かさ

「わたしは、あるという者
である」、または、「わた
しは、わたしはあるとい
う者である」、あるいは
、「わたしは、わたしで
ある」、「わたしは、わ
たしで存在する者である」
ということばでご自身の
神秘な名(YHWH)を明
かすことにより、神はご
自分がどのようなかた
あるか、またどのような
名で呼ばれるべきかを
示されました。

この続きが裏に
ある

← →右の順
(だいひだい同(ひよ))

203-205; 230-231

38 神はどのような名で「自分を啓示なさい」とですか。

神は、モーセに対し、ご自分を生きている神、「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」(出エジプト3・6)として啓示しておられます。同じくモーセに対して、神は「ご自分の神秘的な名を啓示しておられます。「わたしはある(YHWH)という者だ」。名状しがたい神の名は、すでに旧約の時代に主といふことばで置き換えるようになりました。こうして、新約において主と呼ばれるイエスは、真の神としてお現れになるのです。

39 神のみが「ある」のですか。

被造物がその存在のすべてとそのもつてゐるものすべてを神から受けたのに対し、神のみがご自身において存在に満ちたかたであり、あらゆる完全性に満ちたかたです。神は起源もなく、終わりもなく、「あるというかた」です。イエスは、ご自分もまた、「わたしはある」(ヨハネ8・28)といふ神の名をもつてゐることを啓示なさいます。

212-213

40 神の名の啓示はなぜ重要なのですか。
神は、ご自分の名を啓示するにあたって、ご自分の名状しがたい神秘の中に含まれている豊かさを知させてくださいます。つまり神のみが、永遠から永遠まで、世界と歴史を超えておられるか

206-213

○ 神はご自分の名を啓示される

○ 「わたしはある(YHWH)という者だ」すれに旧約の時代に主といふ言葉で置き換えられました。

↓
40番

④ 名状しがたい神の名 → 40番

* 神のみが存在する

・ご自分の名状しがたい
神秘の中に含まれてい
る豊かさを知らせてくだ
さいます。

カテキズム 206 番 神が
神秘であるのと同じよう
に、神の名は神秘的で
す。それは、明かされた
名であると同時に、名づ
けることの拒否ともとれ
ます。まさにそのことか
ら、それは神をありのま
まにもっとも正しく表現
することになります。事
実、神はわたしたちの理
解とことばのすべてを無
限に超越しておられま
す。神は、「ご自分を隠
される神」(イザヤ 45・
15)なのです。そのみ名
は名状しがたいもので
すが、人間に近づかれ
る神です。

・41番最後へ追加

カテキズム 216番 神の真理は被造界全体の秩序を保ち、世界を治める知恵です。おひとりで天地を造られた神だけが、神とのかかわりの中で造られたすべてのものについての真の知識を与えることがおできになります。

たであるといふことです。神が天地を創造されました。神は忠実な方であり、ご自分の民を救うために、つねにこの民の近くにおられます。際立つて聖なる方、「あわれみ豊かな」(エフェソ2:4)かた、つねにゆるそくしておられるかたです。靈的で、超越していて、全能で永遠、人格的で、完全な存在です。真理であるかた、愛であるかたです。

「神は、限りなく完全な存在、すなわち三位一体です」(聖トリビオ・モグロベホ)。

41 どのような意味で神は真理なのですか。

神は真理そのものであり、したがつて間違うことではなく、欺くこともできないかたです。神は「光であり、神には闇がまつたくない」(ヨハネ1:5)のです。受肉した知恵である神の永遠の御子は、「真理についてあかしをするために」(ヨハネ18:37)世に遣わされました。(主イエスがおこなった)

42 神は「自分が愛である」といふのにようなしかたで啓示なさいますか。

神は、父親や母親が自分の子どもに対してもついている愛や、花婿が花嫁に対してもつている愛よりも強い愛をもつてゐるかたとして、ご自分をイスラエルに啓示なさいます。神ご自身が「愛です」(ヨハネ4:8, 16)。無償で全面的にご自分をお与えになります。「御子によって世が救われるため」、「そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛され」ました(ヨハネ3:16-17)。神は、御

(1) 無償で全面的にご自分をお与えする

御子イエス・キリストがおこなつて

7月2日

218-221

214-217, 231

40番

真理である方→41番

後である方→42番

・41番 2行目追加

カテキズム 215番 神はこれまでのところばかりでなく、わたしたちはすべてのことにおいて、神のことばの真理と忠実さに、全幅の信頼をもつて自分をゆだねることができます。人間の罪と失墜の始まりは、神のことば、好意、忠実さを疑わせようとした誘惑者の虚言によるものです。

・45 番をまとめると→三位一体は厳密な意味での信仰の神秘、「神から啓示されなければ知ることのできない神のうちに秘められた神秘」です。(引用は第1バチカン公会議教義憲章「ディ・フィリウス」第4章。DS3015 参照)

DS3015 カトリック教会は、次のことを絶えず教えてきたし、今も教える。すなわち、原理と対象とによって2様の認識系列がある。原理の点からは、自然的理性と神の信仰による認識とである。対象の点からは、自然的理性によって知ることができるものその他に、神の啓示によってだけ知ることができ、信すべきこととして与えられる神の秘められた奥義がある。

中心的神祕 = 至聖なる三位一体の神祕
↓
他のすべての神祕の源泉

・45番参考

カテケジス235番 至聖なる三位一体について押さえておくべきこと

(1)至聖なる三位一体の神祕がどのように啓示されたか

(2)教会はこの神祕に関する信仰の教理をどのように築いてきたか

(3)最後に、御子と聖靈の派遣により、父である神が、どのように創造とあがないと聖化の「いつくしみ深い計画」を実現なさっているか

これらを学び、簡潔に説明できる必要がある。

45 至聖なる三位一体の神祕は人間の理性だけで知ることができます。

237

神は、ご自分が三位一体であることの何らかの痕跡を、創造において、また旧約において残されました。しかし、三位一体としての神の存在の内奥は、人間の理性だけでは到達することができないばかりか、神の子の受肉と聖靈の派遣の前にはイスラエルの信仰によっても到達することができない神祕でした。この神祕は、イエス・キリストによって啓示されました。これは、他のすべての神祕の源泉です。

44 信仰およびキリスト者の生活における中心的神祕は何ですか。(そのままである) 222-227, 229
信仰およびキリスト者の生活における中心的神祕は至聖なる三位一体の神祕です。キリスト者は、父と子と聖靈の名によって洗礼を受けられます。(裏に洗礼式の信仰宣言)

43 唯一の神を信じることに伴つて何が求められますか。(そのままである) 222-227, 229
以下のことが求められます。神の偉大さと威光を知ること、感謝のうちに生きること、いつでもたとえ逆境の中であつてもつねに神に信頼すること、神のかたどりとして創造された人間すべての一一致と真の尊嚴を認めること、神が創造されたものを正しく用いることです。

44(左) 44(右) 44(中) 44(下)
彼の永遠の交わりであり、その交わりにゆだねたからも
子と聖靈を遣わして、「自分が愛の永遠の交わりであることを啓示なさいます。

④A (参考文献)

マウルス・ハインリッヒ講義集

「神の秘義-唯一・三位の神」

ペトロ・ネメシエギ

「父と子と聖靈」

父と子と聖靈の
名

・42番 どのようなしかたで啓示なさいますか
→旧約時代にはイスラエルの民への無償の愛で、新約時代には御子イエス・キリストをお与えになることでご自分が愛であることを啓示なさいました。

・42番追加(ご自分が愛の永遠の交わりであることを啓示なさいます。)

カテキズム221番 神は永遠に父と子と聖靈の永愛の交わりでありますが、その交わりにわたしたちをもあずからせようと、お決めになつたのです。

47

しかし、古い西方ならびにアレクサンドリア伝承に従い、教皇聖レオがすでに447年に、これを教義として公言しました。

(聖レオ1世書簡 Quam laudabiliter DS284 参照)

これは、ローマ教会が451年のカルケドン公会議で381年の信条を知り、受け入れる以前のことでした。そして徐々に(8世紀から11世紀の間に)ラテン典礼ではこの語を信条の中に入れて唱えるようになりました。ラテン典礼でニケア・コンスタンチノープル信条の中に(父)と子よりも導入されたことについては、今日でも、東方教会との論争点になっています。

・44 番参考 洗礼式の信仰宣言

天地の創造主、全能の、神である父を信じます。

父のひとり子、おとめマリアから生まれ、苦しみを受けて葬られ、死者のうちから復活して、父の右におられる主イエス・キリストを信じます。

聖霊を信じ、聖なる普遍の教会、聖徒の交わり、

罪のゆるし、からだの復活、永遠のいのちを信じます。



カテケジス 248 番

父が聖霊の究極的根源であることを表しています。「父のもとから出る」(ヨハネ15・26)と宣言する聖靈が父と子を通じて発出する(第の宣誓)。この伝承は、聖靈が父と子を宣言している教会議「教会令」2)。西方教会は、聖靈が父と子(Filioque)によります、父と子の同一実体としての交わりを表しています。この表現は、「合法的で正しい」ものです。なぜなら、に序の交わりの永遠の源として父は「本源の究極的根源であり、また同時に、ひとり子の父としてひとり子と一つになった本源、唯一の本源」として聖靈の究極的根源です。これには、柔軟に考えさえすれば、同じ三位一体の神秘に対する信仰の同一性を損なうことはありません。

48

教会は三位一体の信仰をどのように表しますか。

249-256; 266

教会は、父と子と聖靈の三位のペルソナにおける唯一の神を告白することによって、三位一体の信仰を表します。三位の神のペルソナは唯一の神です。それぞれが、唯一で分かつことのできない

(みのまげ)

46

御父の神秘についてイエス・キリストはわたしたちに何を啓示なさいますか。

240-242

イエス・キリストは、神が「父」であることを、わたしたちに啓示なさいます。神が「父」であるのは、単に万物と人間の創造主であるからだけでなく、とくに永遠からその懷において、ご自分のことばである御子、「(イ)自分の栄光の反映であり、ご自分の本質の完全な現れ」(ヘブライ1・3)である御子を生み出されるかただからです。

47

イエス・キリストがわたしたちに啓示してくださいましたに何を啓示なさいますか。

243-248

至聖なる三位一体の第三のペルソナです。神であり、御父と御子と一つであり、同等なたです。聖靈は「父のもとから出る」(ヨハネ15・26)かたです。御父は、本源のない本源として、三位一体のいのち全体の起源だからです。聖靈はまた、御父が御子に与える永遠のたまものによって、御子から発出するかたでもあります (Filioque)。聖靈は、御父と、受肉した御子から遣わされ、教会を導いて「真理を」と「悟らせ」(ヨハネ16・13)ます。

聖
霊

・47 番(Filioque 論争)

聖靈は「父のもとから出る」(ヨハネ15・26)かた。聖靈はまた、御父が御子に与える永遠のたまものによって、御子から発出するかたでもある。



↑ カテケジス 247 番
(父)と子より(Filioque)という文言は、381 年のコンスタンチノープル信条には出ていません。

・49 番説明の追加
神の三位のペルソナは
どのように働きますか

カテケジス 258 番 神の三位の固有な特性を明らかにするのは、とくに受肉という御子の派遣と、たまものとして与えられる聖靈の派遣です。

カテケジス 260 番 救いの営み全体の究極目的は、神によって創造された人々が至福である三位一体の完全な一致のうちにに入ることにあります。

カテケジス 278 番 神の愛は全能だと信じないならば、御父がわたしたちを創造し、御子がわたしたちをあがない、聖靈がわたしたちを聖化してくださると、どうして信じられるでしょうか。

神の本性の充満と同一だからです。三位のペルソナは、それぞれが他の二位のペルソナとの間にもつ関係によって、互いに、そして実際に区別された存在です。御父は御子を生み、御子は御父より生まれ、聖靈は御父と御子から発出します。

49 神の三位のペルソナはどのように働くのですか。

その唯一の実体において分離しえない神の三位のペルソナは、働きにおいても分離することができません。三位一体は、ただ一つの同じ働きをもっておられます。しかし、神の唯一の働きにおいて、それぞれのペルソナは三位一体のうちにそれぞれ固有のしかたで現存しておられるのです。

「ああ、わたしの神、わたしの礼拝する三位一体よ、……わたしの魂に平和をお与えください。わたしの魂をあなたの天、あなたの愛する住まい、あなたの憩いの場としてください。わたしがあなたを孤独にしておくことがありませんように。わたしが余すところなくそこにいて、信仰のうちにわたしのすべてが目覚め、わたしのすべてが礼拝し、わたしのすべてがあなたの創造のわざにささげられた者となりますように」（三位一体の福音エリザベト）。

50 神が全能であるとはどのような意味ですか。

神の属性の中で、信条ではまだ全能だけが挙げられている。

・50 番説明の追加

カテケジス 268 番 神の属性の中で、信条ではただ全能だけが挙げられている。

カテケジス 276 番 教会は聖書の教えを忠実に受け継ぎ、しばしば「全能で永遠である神」に（「全能、永遠の神よ…」と）祈りをささげますが、それは「神にはできないことは何一つない」（ルカ1・37）ことを固く信じているからにはかなりません。

同 277 番 神はわたしたちを罪から回心させ、恵みによって友愛関係を取り戻させることによって、ご自分の全能を現されます（「全能の神よ、あなたのゆるしは限りなく、そのあわれみはすべてに及びます」年間第26番日の集会祈願）。

・52番 追加説明
創造は、三位一体の共同のわざである。

・53番 補足説明
カテケジス 294番 神の栄光、それは神の善が表され、伝えられることにはかなりません。これこそ、世界が造られた目的です。
創造の究極目的は、「万物を造られたかた(神)が、ご自分の栄光と同時にわたしたちの幸福をも配慮しつつ、ついに『すべてにおいてすべてとなれる』(一コリント 15・28)」ことなのです。

53 世界はなぜ創造されたのですか。

52 だれが世界を創造しましたか。
世界の創造のわざは、とくに父である神に帰せられますが、父と子と聖霊が唯一で分かつ」とのできない、世界の根源です。(追加して下さい)

293-294; 319

51 「初めに、神は天地を創造された」(創世記1・1)と断言することが重要なのはなぜですか。

それは、創造が神の救いの計画全体の土台だからです。神の全能で知恵に満ちた愛を示しているからです。唯一の神のその民との契約に向けた最初の一歩だからです。キリストにおいて頂点に達する救いの歴史の始まりだからです。自らの起源と目的についての人間の根本的な問い合わせに対する最初の答えだからです。

299-289; 315

第一編 信仰宣言 62

かたとして啓示なさいました。神の全能は普遍的、神秘的であり、無からの世界の創造と愛による人間の創造において現れます。しかし、とくに、御子の受肉と復活において、人を神の養子とするたまものにおいて、また罪のゆるしにおいて現れます。このため、教会は「全能永遠の神(Omnipotens sempiterne Deus ...)」に向かって祈るのです。

カテ 276 277

(A)

(B)

行 278

・51番 「…と断言することが重要なのはなぜですか」
神が「天地の創造主」であるということを、わたしたちがまず最初に宣言するということは、これが、わたしたちの信仰の土台となっているからです。創造は、神の「救いのすべての計画の土台」であり、キリストを頂点とする「救いの歴史」の始まりなのです。

カテケジス 297 番 聖書において、「無から」創造されるという信仰は、含約束と希望を豊かに含む教えとして示されています。(たとえば、殉教していった七人の息子の母親の物語)

・55 番 補足説明

カテケジス 302 番→被造界は固有の善と価値とを備えていますが、創造主からまったく完成したものとして造られたものではありません。神が定めた、これから到達しなければならない究極の完成に「向かう途上」にある書として造られました。も

「原因となる資格を」→
カテケジス 306 番 神は被造物の存在を与えるだけでなく、被造物が自ら行動し、互いに原因および出発点となり合って、ご自分の計画の達成に協力する資格をお与えになるのです。

折 302

- 54 神はどのように万物を創造されましたか。
折 297
神は英知と愛をもつて、自由に万物を創造されました。世界は、何らかの必然性、まったくの運命、偶然などの産物ではありません。神は「無から (ex nihilo)」(1マカバイ7・28) 秩序のあるよい世界を創造されましたが、ご自身はこの世界を限りなく超越しておられます。神は、御子と聖霊を通して被造界の存在を保ち、これを支え、これに活動する能力を与え、完成へと導かれます。

55 神の摂理とはどのようなものですか。
折 306

- それは神のはからいのことであり、神はこれに従つて被造物を、ご自身がそこへとお呼びになつた最終的な完成に導かれます。神はその計画の最高の作者です。しかし、その実現のために、神は被造物の側の協力をも活用されます。同時に、神は被造物に対しても、自ら行動して、互いに相手の原因となる資格をお与えになります。

302-306-321

「神の栄光とは生きている人間であり、人間のいのちとは神を見ることです」(聖イレネオ)。

295-301-317-320

「世界は神の栄光のために創造されました。神は、ご自分の善と真理と美を示し、伝えようと望まれました。創造の究極目的は、神がご自分の栄光とわたしたちの幸福のために、キリストのうちにすべてにおいてすべて」(コリント15・28)となられることです。

「実に、神の栄光とは生きている人間にあり、人間の生命とは神を見ることがあります。覆われた状態での神の現れが地上の生きものすべてに生命を与えるとすれば、みことばによる御父の顕現は、それにもまして、神を見る人々に生命を与えるはずです」(聖イレネオ『異端反駁』)

・54 番 追加説明

「世界は…などの産物ではありません。」→学者のさまざまな仮説を斥けている。

神は「無から」秩序のあるよい世界を創造された→カテケジス 296 番 創造なさるために、神は前もって存在する何ものも、いかなる助けも必要とされないことをわたしたちは信じています。

・57 番の関連説明

カテキズム 311 番

理性的で自由意志を備えている被造物である天使と人間は、自由に選択し愛を優先させることによって究極目的に向かって進まなければなりません。ここで、正道を踏み外すこともあります。実際、彼らは罪を犯しました。こうして、道徳的悪が世界に入りましたが、これは物理的悪とは比較にならないほど重大なものです。神は直接にも、間接にも、いかなる意味においても、道徳的悪の原因ではありません。それにもかかわらず、神は被造物の自由を尊重して、道徳的悪を妨げません。また、神秘としかいえませんが、そこから善を引き出すことがおきになるのです。

58 なぜ神は悪の存在を許されるのですか。（そのまゆ）

311-314, 324, 400

信仰によってわたしたちは次のことを確信しています。悪そのものから善を引き出すことができないとすれば、神は悪の存在を許されなかつたでしよう。神はこのことを、すでにキリストの死と復活のときに驚嘆すべきしかたで実現されました。事実、神は、御子の殺害という最大の道徳的悪の根源である、あの大きな道徳的悪に打ち勝つために、死んで復活されたのです。

・57 番の答えとして カテキズム 310 番

神は、なぜ、何の惡も存在しないほどの完全な世界を造られなかつたのでしょうか。神は無限の力をもつておられるので、つねによいものを造ることがおできになれるはずです。しかし、神は無限の英知と善とをもつて、世界が究極の目的に「向かう途上」のものとして創造することを自由にお望みになりました。神の計画によって、この生成には、ある存在が出現すれば他のものが消滅し、より完全なものがあればより不完全なものも存在し、自然的な形成もあれば破壊もあることになっています。したがって、被造物が完成に至らない限り、物理的善と物理的惡とが共存するのです。

カナヘンジス 307 番

人間はどのように神の摂理に協力しますか。
甲斐かくしき、ほんとうに
わかるかなあ

307-308, 323

神は、人間が「み心のままに望み、行う」（ファリビ2・13）よう内側から働きかけることによって、その自由を尊重しながらも、自らの行いと祈りだけでなく苦しみによっても協力する力をお与えになり、またそのように求めになります。

57 神が全能であり、摂理によって取り計らうかたであるなら、なぜ惡が存在するのですか。

なぜえこゑかほなあ？ 始めに
ありますか？ 始めに

物理的悪と道徳的悪

309-310, 324, 400

とても悲痛で不思議なこの問いに對しては、ただキリスト教信仰の全体を通してのみ答えることができます。神は、いかなる意味においても、直接にも間接にも、惡の原因ではありません。神は、御子イエス・キリストにおいて惡の神祕に光を当てます。キリストは、人々の罪であり他の諸惡の根源である、あの大きな道徳的悪に打ち勝つために、死んで復活されたのです。

・ペルソナ
自立存在 自存者
おかた 存在者
自分で自由に判断する
自己存在
知恵と自由をそなえた
存在

「ある天使」とは?
番 6月 29日
三大天使
10月 2日 守護の天使

1949-1973
4980325
55

から、キリストの榮光とわたしたちのあがないという最大の善を引き出されたのです。

天地

59 神は何を創造されましたか。 ベルソナ

自立存在
自存者
天地
自分で自由に
判断する存在
知恵と自由を
そなえた存在

幼ま
↓

325-327

聖書は「初めに、神は天地を創造された」（創世記1・1）と述べています。教会は、その信仰宣言の中で、神が見えるもの、見えないもの、すべてのものの造り主であることを宣言します。すべてのものとは、あらゆる靈的存在と物質的存在、すなわち天使と目に見える世界、とくに人間です。

60 天使はどのような存在ですか。

328-333, 350-351

天使とは、純粹に靈的で、からだをもたず、目に見えない、不死の被造物で、知性と意志を備えたペルソナとしての存在です。天使は顔と顔を合わせて神をたえず観想しながら、神に榮光を帰し、神に仕えています。そして、すべての人のために救いの使命がなし遂げられるため、神の使者です。

65 第二部 キリスト教の信仰宣言

61 天使は教会の生活の中でどのような存在ですか。
教会は、天使たちと一つになつて神を礼拝し、天使たちの助けを願い求めます。ある天使について

334-336, 352

・62 番「神の賛美と人間への奉仕」(2)

カテケジス 353 番

神は被造物の多様性、それぞれに固有な善、相互依存、秩序をお定めになりました。物理的被造物のすべては、人類の益になるように定められています。人間、また人間を通して全被造物は、神の栄光のためには存在しています。

・63 番 神に似せて創造されたからです

カテケジス 343 番

人間は創造のわざの頂点です。

靈感によって書かれた創世記の物語はこれを表すため、人間の創造を他の被造物のそれと区別しています。

・62 番「すなわち神の賛美と人間への奉仕」(1)

カテケジス 339 番 神は一つ一つが独自の存在であることを望まれました。したがって、それぞれの被造物は、それぞれの無限の英知と善の一面を反映しています。

そのため、人間は各被造物に固有の善を尊重して、事物の濫用を避けなければならぬのです。濫用は創造主を軽んじ、人間とその環境に害をもたらします。

では、典礼の中でこれを記念します。「ある天使」とは?

「キリスト信者はだれでも、保護者、牧者である天使に付き添われ、いのちに導かれます」(大聖バシリオ)。

62 聖書は目に見える世界の創造について何を教えていますか。

聖書は、「六日間」の創造の物語を通して、被造物の価値とその目的、すなわち神の賛美と人間への奉仕という目的をわたしたちに知らせてくれます。あらゆるものは、その存在を神に負っています。神から、固有の善と完全さ、固有の法則と万物における固有の場を受けます。

63 創造において人間はどのような場を占めていますか。(りのすま)

343-344, 353

人は、目に見える被造物の頂点です。神にかたどり、神に似せて創造されながらです。これります。

64 被造物の間にはどのようなつながりがありますか。

342, 354

被造物の間には、神が望まれた相互の依存関係と順位が存在しています。同時に、被造物の間には一致と連帯が存在しています。全被造物が同じ創造主をもち、このかたから愛され、その栄光へと秩序づけられているからです。したがって、創造において刻まれた法則と、ものの本性から生じ

66. In what sense do we understand man and woman as created "in the image of God"?

The human person is created in the image of God in the sense that he or she is capable of knowing and of loving their Creator in freedom. Human beings are the only creatures on earth that God has willed for their own sake and has called to share, through knowledge and love, in his own divine life. All human beings, in as much as they are created in the image of God, have the dignity of a person. A person is not something but someone, capable of self-knowledge and of freely giving himself and entering into communion with God and with other persons.

人格
66 番ペルソナの意味がここに書かれています。「人間は、神にかたどつて創造されたものとして、人格の尊厳を有しています。何らかの物ではなく、だれかであり、自らを知り、自らを自由に与え、神および他の人々との交わりに入る能力を持っているのです。」

67 どのような目的で神は人間を創造されましたか。

66 人間が「神にかたどつて」創造されたとはどのような意味ですか。

人間が神にかたどつて創造されたとは、人間が自分の創造主を自由をもつて知り、愛する能力をもつているという意味です。この地上において、人間は、神がその人自身のためにお望みになり、知り愛することとご自分の神のいのちを分かち合うよう呼ばれた唯一の被造物です。人間は、神にかたどつて創造されたものとして、人格の尊厳を有しています。何らかの物ではなく、だれかであり、自らを知り、自らを自由に与え、神および他の人々との交わりに入る能力をもつているのです。

人間

イエスの復活。質問してみる？

ほんの少しの文字

なのには
345-349

65 創造のわざとあがないのわざの問にはどのような関係がありますか。
創造のわざは、それよりもさらに偉大なあがないのわざにおいて頂点に達します。事実、あがないのわざは新しい創造を開始します。そこでは、すべてのものが自らの完全な意味とその実現とをあらためて見いだします。

る関係を尊重することは、知恵の原理であり、道徳の基礎です。

・64 番 相互の依存関係と順位

カテケジス342番 被造物間の順位は、不完全なものからより完全なものへと進む「六日」にわたる創造のわざの順序によって表されています。

・65 番 「それよりも偉大なあがないのわざ」って何よ？

カテケジス349番
八日目。しかし、わたしたちにとっては新しい一日が加わりました。キリストの復活の日です。七日目で第一の創造が完了します。そして八日目に、新しい創造が開始されるのです。…この新しい創造の素晴らしいさは、第一の創造をはるかに超えるものです。

•69 番 追加説明

カテケジス365番参照
(人間の内なる精神と物質とは結合した二つの本性ではなく)「精神と物質がただ一つの本性を形づくっています。」

カテケジス 363 番 聖書
がいう魂とは、しばしば
人間のいのち、あるいは
人間のペルソナ全体を
示します。しかしながら、
人間の内部のもっとも奥
深いもの、もっとも大事
なもの、すなわち、人間
を特別に神の似姿にする
ものをも指しています。
つまり、「靈魂」は人間
の中の靈的原理を意味し
ます。

70

さらに、「一人の人がすべての民族を」(使徒言行録17・26)創造されました。また、すべての人は唯一の救い主をもち、神の永遠の至福を分かち合うよう呼ばれています。

(そのままで)

366-368; 382

•68番 追加説明

ノイフ』前勢そに起とで性、に直接でなすに用達。すれ的ででま
ノイ和戦情。勅。て何観本ち、とい直つす。法利發す。つはけ目つざい
ノノ平大たれた回。あるいは、界のわ魂てる一、す。然を、ま一間なの一によわてい
世界世きさされのがおと世類す靈つけは一つで自りいきも人わこもにわれれば
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
世界世きさされのがおと世類す靈つけは一つで自りいきも人わこもにわれれば
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムムム
ムムムムムムムムム
ムムムムムムムム
ムムムムムムム
ムムムムムム
ムムムムム
ムムムム
ムムム
ムム
ム
ム

靈魂は両親から来るものではなく、直接、神によって創造されるものであり、不滅です。靈魂は、死の瞬間にからだから分離しますが、滅びません。最後の復活のときに再びからだと結ばれます。

71 神は男と女の間にどのような関係を定められましたか。

369-373, 383

男と女は、神により、同じ尊厳をもつ人格を備えた人間として創造されました。また同時に、男性と女性という相互に補い完成し合う者として創造されました。神は、彼らが人格的交わりのために、互いに相手のためにある者となることをお望みになりました。彼らはまた、結婚において「一體」（創世記2・24）となり、人間のいのちを伝えていくように、そして神から委任された「管理者」として地を支配するように一緒に呼ばれています。

72 神の計画によれば人間の原初の状態はどのようなものでしたか。

374-379, 384

神は男と女を創造したとき、聖性と義においてご自分の神のいのちに特別にあずかる恵みを彼らにお与えになりました。神の計画においては、人間は苦しむことも死ぬこともないはずでした。さらに、人間自身のうちに被造物と創造主、男と女、また人間の最初の夫婦と全被造物との間の完全な調和が支配していました。

卷之三

73 罪という現実はどのように理解すればよいのですか。

人間の歴史には罪が存在します。このような現実は、ただ神の啓示の光とくにすべての人の救い主であるキリストの光によってのみ、全面的に明らかになります。このキリストは、罪が満ちたところに、なおいつそう恵みをあふれさせてくださいました。

74 天使の墮罪とは何ですか。

この表現は、聖書と教会の聖伝が語るサタンと他の悪魔たちは、神によつてよい天使として創造されたにもかかわらず、自由なそして撤回できない選択によつて、神とそのみ国を拒絶したため、悪いものへと変わつてしまつたことを示しています。彼らはこのようにして地獄を生じさせました。彼らは神に対する反逆に人間をも加わらせようと試みます。しかし、神はキリストにおいて、悪い者に対する確かな勝利を宣言されます。

75
人間の最初の罪とはどのようなものですか。

396-403; 415-417

人間は、悪魔に誘惑され、自分の心の中で創造主に対する信頼が消えていくのに任せました。人

【墮罪】予備説明

カテケジス 385 番

神は無限に善であり、そのすべてのわざはよいものです。ところが、苦しみや自然界の災害——被造物固の限界に付随するものと思われる悪——を経験しない者、とくに道徳的悪の問題を抱えていない者はだれもありません。悪はどこから来るのでしょうか。「わたしは悪の由来を探しましたが、答えを得られませんでした」と聖アウグスチヌスは述懐しています。そして、この悲痛な探求が解決を見たのは、ただ生ける神への回心によってでした。「不法の秘密〔悪の神秘〕」(二テサロニケ 2・7)は信心の秘められた真理に照らして、初めて明らかになります。キリストにおける神の愛の啓示は、悪の広がりとともに、恵みの満ちあふれる豊かさを明らかにしました。したがって、悪の起源の問題を考察するにあたっては、悪に対する勝利者であるただ一人のかた、すなわち、キリストに信仰の目を注がなければなりません。

間は創造主に背き、神なしに、また神によらずに「神のように」なろうと望みました(創世記3・5)。こうして、アダムとエバは、自分たちのためにも、また自分たちの子孫すべてのためにも、原初の聖性と義の恵みを直ちに失つてしまいました。

76 原罪とは何ですか。

カーラス 30番 ⑧
404, 419

すべての人は原罪の中に生まれます。原罪とは、原初の聖性と義を失った状態のことです。それは、わたしたちに「伝播された」罪であって、わたしたちが「犯した」罪ではありません。生まれながらの状態であって、個人の行為ではありません。すべての人の起源が一つであるため、原罪は人間の本性とともに「模倣によってではなく、生殖によって」アダムの子孫に伝わっていきます。この伝達は、わたしたちが完全には理解することができない神祕のままでです。

77 原罪はほかにどのような結果をもたらしますか。

405-409, 418

原罪の結果として、人間本性は全面的に腐敗したわけではありませんが、その本来の力が傷つき、無知と苦しみと死の力の支配下に置かれ、罪への傾きをもつようになりました。この傾きは欲望と呼ばれています。 ↓ カテハジス 405

78 最初の罪の後、神は何をなさいましたか。

410-412, 420

最初の罪の後、世界は罪の波に飲み込まれましたが、神は人間を死の力に捨て置かれず、逆に、悪が打ち負かされるであろうこと、人間が墮罪から引き上げられるであろうことを、神秘的なしかたで――「原福音」において（創世記3・15）――人間に予告されました。それは、あがない主メシアについての最初の告知です。このため、墮罪は幸いなる罪とさえ呼ばれています。「このようないままたこれほど偉大なあがない主をいただくに値するものとなつた」（復活徹夜祭の典礼）からです。

第二章 わたしは神のひとり子イエス・キリストを信じます

79 人間にとって福音とは何ですか。

422-424

「生ける神の子」（マタイ16・16）であり、死んで復活したかたであるイエス・キリストの告知です。ヘロデ王と皇帝アウグストゥスの時代に、神はアブラハムとその子孫になさつた約束を実現されました。神は、「その御子を女から、しかも律法のもとに生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にある者をあがない出して、わたしたちを神の子となさるためでした」（ガラテヤ4・4—5）。

80 この福音はどのようにして広まりますか。

425-429